

II. 調査結果の概要

I 交際について

(1) 恋愛に対する考え方

恋愛に関する考え方について聞いたところ、日本では、「恋愛することで人生が豊かになる」(47.9%)が最も高く、次いで「相手からアプローチがあれば考える」(40.4%)が高く、「交際をすると相手との結婚を考える」(37.0%)が続く。

各国の結果を比較すると、各国とも「恋愛することで人生が豊かになる」(フランス：54.0%、ドイツ：62.3%、スウェーデン：87.6%)が最も高いが、特にスウェーデンでは9割弱となっている。

日本について前回2015年度調査の結果と比較すると、「恋愛することに自信がない」(2015年：7.7%→2020年：14.1%)、「恋愛は面倒だと感じる」(12.7%→19.4%)、「相手からアプローチがあれば考える」(34.9%→40.4%)、「恋愛することで人生が豊かになる」(42.8%→47.9%)の各項目でそれぞれ5ポイント以上増加した一方、「恋愛よりも勉強や仕事を優先したい」(19.2%→12.4%)と「交際をすると相手との結婚を考える」(42.7%→37.0%)は5ポイント以上減少した。(図I-1)

図I-1 恋愛に対する考え方(複数回答)

	2020年 (%)				日本 (%)	
	日本 (n=1,372)	フランス (n=1,000)	ドイツ (n=1,022)	スウェーデン (n=1,000)	2020年 (n=1,372)	2015年 (n=754)
恋愛よりも勉強や仕事を優先したい	12.4	15.1	14.2	12.9	12.4	19.2
恋愛よりも趣味を優先したい	18.2	13.1	7.5	9.2	18.2	18.8
交際をすると相手との結婚を考える	37.0	22.0	38.5	30.8	37.0	42.7
それほど好きではない人とも 恋愛や交際をしてもかまわない	7.0	9.4	3.4	21.3	7.0	5.8
いつも恋愛をしたい	8.9	24.6	29.8	19.6	8.9	10.9
気になる相手には自分から 積極的にアプローチをする	19.5	17.4	38.3	34.4	19.5	20.0
相手からアプローチがあれば考える	40.4	10.4	17.0	25.5	40.4	34.9
恋愛することで人生が豊かになる	47.9	54.0	62.3	87.6	47.9	42.8
恋愛は面倒だと感じる	19.4	1.5	5.2	14.4	19.4	12.7
恋愛することに自信がない	14.1	6.4	6.9	1.7	14.1	7.7
恋愛はしたいが、お金がかかる	11.6	4.9	6.8	3.7	11.6	10.9
その他	2.8	2.2	1.0	3.3	2.8	0.3
無回答	0.4	0.1	0.4	0.9	0.4	2.7

注:「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

(2) 交際相手との出会いについての考え方

交際相手との出会いを求めるとしたら、どのような機会があるとよいと思うかについて聞いたところ、日本では、「友人・知人に紹介を頼む(紹介をうける)」(62.4%)が最も高く、以下、「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」(38.8%)、「職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む(紹介をうける)」(33.6%)が続く。

各国の結果を比較すると、フランスでは「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」(30.3%)、ドイツ・スウェーデンでは「友人・知人に紹介を頼む(紹介をうける)」(ドイツ：58.1%、スウェーデン：57.1%)が最も高くなっている。また、欧州3か国では「婚活サイトなどのインターネットサイトやSNS、マッチングアプリを利用する」(フランス：24.3%、ドイツ：34.4%、スウェーデン：53.3%)が高くなっているが、日本では16.9%にとどまっている。(図I-2)

図I-2 交際相手との出会いについての考え方(複数回答)

(%)				
2020年				
	日本 (n=1,372)	フランス (n=1,000)	ドイツ (n=1,022)	スウェーデン (n=1,000)
友人・知人に紹介を頼む(紹介をうける)	62.4	25.7	58.1	57.1
職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む(紹介をうける)	33.6	6.9	26.6	19.8
親族等に紹介を頼む(紹介をうける)	4.4	17.4	31.5	7.8
趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う	38.8	30.3	42.0	52.6
合コンやパーティーに行く	26.5	24.0	39.0	38.4
婚活サイトなどのインターネットサイトやSNS、マッチングアプリを利用する	16.9	24.3	34.4	53.3
交際相手を紹介してくれる結婚支援サービスを利用する(有料・無料を問わない)	10.0	1.0	6.4	1.9
自治体が主催する結婚支援サービスを利用する	6.0	0.6	2.1	0.6
その他	1.2	1.1	3.0	5.6
特にない	17.6	32.8	13.9	10.2
無回答	0.2	0.2	0.1	1.3

II 結婚について

(1) 独身の理由

独身の理由について、上位3項目を合わせて集計したところ、日本では、「適当な相手にまだ巡り合わないから」(50.5%)が最も高く、以下、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(38.6%)、「経済的に余裕がないから」(29.8%)、「結婚する必要性を感じないから」(27.9%)、「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」(27.3%)などの順となっている。

各国の結果を比較すると、欧州3か国では「結婚する必要性を感じないから」(フランス：58.9%、ドイツ：49.0%、スウェーデン：60.7%)の割合が最も高くなっている。

日本について前回2015年度調査と比較すると、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(29.6%→38.6%)が9.0ポイント増加し、「今は、仕事(又は学業)に打ち込みたいから」(32.0%→19.0%)が13.0ポイント減少している。(図II-1)

図II-1 独身の理由<独身者>(上位3項目)

	2020年 (%)				日本 (%)	
	日本 (n=578)	フランス (n=718)	ドイツ (n=681)	スウェーデン (n=631)	2020年 (n=578)	2015年 (n=297)
結婚するにはまだ若すぎるから	15.6	23.7	27.6	12.8	15.6	13.8
結婚する必要性を感じないから	27.9	58.9	49.0	60.7	27.9	30.0
同棲のままで十分だから	2.9	41.4	34.8	47.2	2.9	2.4
今は、仕事(又は学業)に打ち込みたいから	19.0	20.9	22.0	22.8	19.0	32.0
今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	27.3	19.1	12.0	9.4	27.3	27.3
独身の自由さや気楽さを失いたくないから	38.6	20.8	14.1	8.9	38.6	29.6
適当な相手にまだ巡り合わないから	50.5	31.3	33.9	41.5	50.5	53.5
異性とうまく付き合えないから	15.9	4.5	2.3	7.3	15.9	8.8
経済的に余裕がないから	29.8	9.3	13.8	21.4	29.8	33.7
結婚生活のための住居のめどがたたないから	4.0	4.7	4.3	2.2	4.0	8.1
親や周囲が結婚に同意しない(だろう)から	4.5	0.8	2.6	0.5	4.5	3.0
一生、結婚するつもりはないから	8.1	16.6	8.8	7.9	8.1	4.0
その他	7.6	4.9	14.0	19.7	7.6	2.4
特にない	3.3	2.8	0.4	0.3	3.3	9.8
無回答	2.1	-	-	0.5	2.1	5.4

注:「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

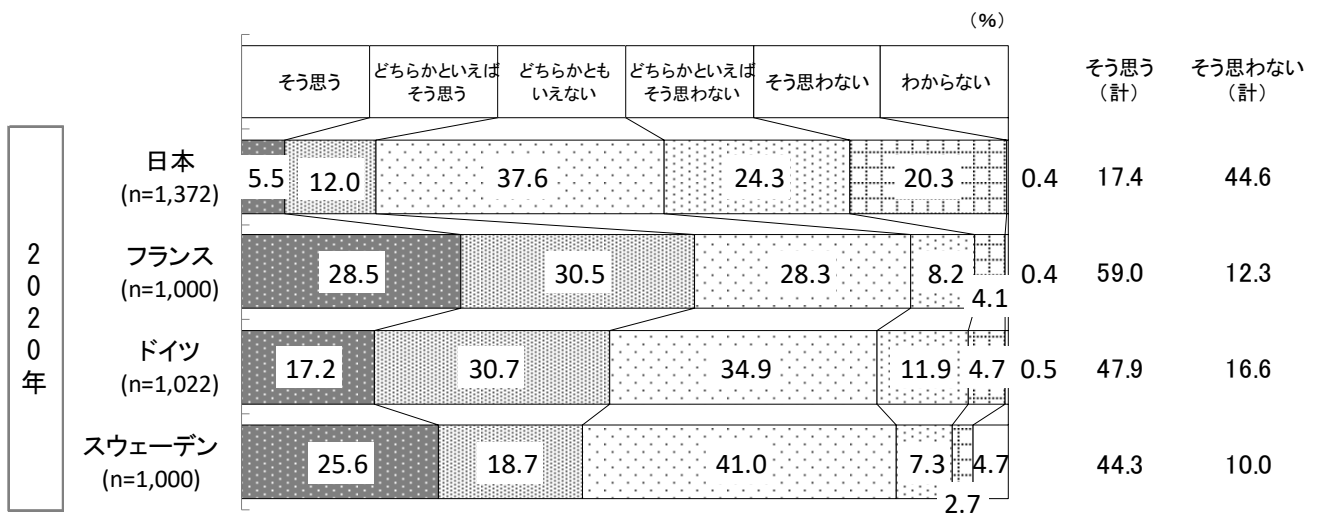
Ⅲ 出産について

(1) 不妊治療の環境

不妊治療を受けやすい環境かどうか聞いたところ、日本では、「そう思わない」(20.3%)と「どちらかといえばそう思わない」(24.3%)を合計した『そう思わない(計)』が44.6%となっている。

各国の結果を比較すると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『そう思う(計)』の割合が、フランスでは59.0%、ドイツでは47.9%、スウェーデンでは44.3%となっており、日本(17.4%)と対照的な結果である。(図Ⅲ-1)

図Ⅲ-1 不妊治療の環境



(2) 不妊治療を受けにくい理由

不妊治療を受けにくい理由について聞いたところ、日本では、「治療費の負担が大きいから」(91.8%)が最も高く9割を超えており、「仕事に影響するから」(49.0%)、「不妊治療に関する情報が少ないから」(42.8%)が続く。

各国の結果を比較すると、欧州3か国では、日本と同様、「治療費の負担が大きいから」(フランス：65.9%、ドイツ：76.5%、スウェーデン：56.0%)が最も高い。「仕事に影響するから」(フランス：6.5%、ドイツ：16.5%、スウェーデン：2.0%)は日本と比較して低い。(図Ⅲ-2)

図Ⅲ-2 不妊治療を受けにくい理由<不妊治療を受けにくいと回答した回答者> (複数回答)
(%)

	2020年			
	日本 (n=612)	フランス (n=123)	ドイツ (n=170)	スウェーデン (n=100)
治療費の負担が大きいから	91.8	65.9	76.5	56.0
仕事に影響するから	49.0	6.5	16.5	2.0
心理的に抵抗があるから	22.7	27.6	36.5	18.0
周囲の人から反対されるから	3.8	7.3	16.5	8.0
身体的な負担が大きいから	47.1	30.1	35.3	5.0
不妊治療を実施している医療機関が 周囲にないから	14.9	29.3	15.9	25.0
不妊治療に関する情報が少ないから	42.8	56.1	40.6	39.0
不妊治療の効果が小さいから	7.2	22.0	15.9	2.0
その他	4.1	1.6	1.2	18.0
無回答	-	-	-	-

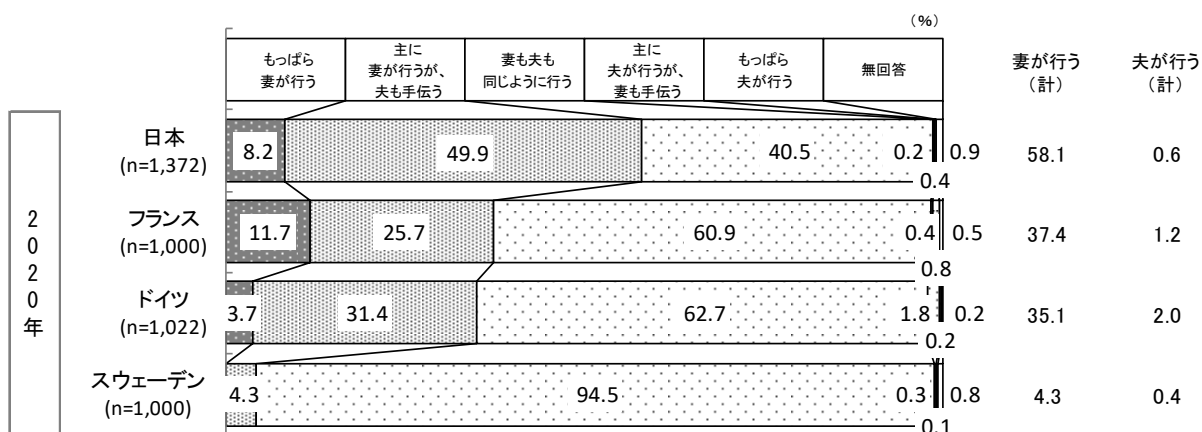
IV 育児について

(1) 小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割について

小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割についての考えを聞いたところ、日本では、「主に妻が行うが、夫も手伝う」(49.9%)が約半数を占めており、「妻も夫も同じように行う」(40.5%)が続く。

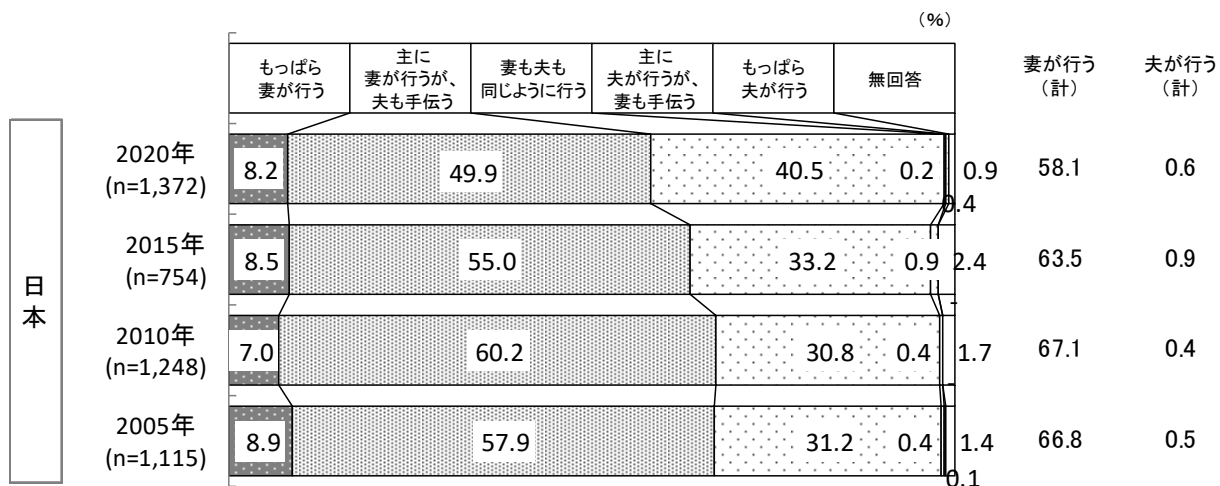
各国の結果を比較すると、欧州3か国では「妻も夫も同じように行う」(フランス：60.9%、ドイツ：62.7%、スウェーデン：94.5%)と回答した人の割合が6割を超えており、スウェーデンで9割台と特に高くなっている。(図IV-1)

図IV-1 小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割について (4か国比較)



日本について過去の結果と比較すると、「妻も夫も同じように行う」(40.5%)が前回2015年度調査の33.2%より7.3ポイント増加している。(図IV-2)

図IV-2 小学校入学の子供の育児における夫・妻の役割について (日本)



注:「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。

(2) 育児の中で、妻よりも夫の方が主に行ってほしいこと

子供のいる方に、家庭の中で、小学校入学前の育児において、男性には妻と同程度あるいは自身の方が主として行いたい（行いたかった）こと、女性には自身と同程度あるいは夫の方が主として行ってほしい（行ってほしかった）ことは何か聞いたところ、日本では、「散歩など、屋外へ遊びに連れて行く」（52.8%）と「家の中で、話や遊び相手をする」（51.9%）が最も高く、「入浴させる」（47.3%）が続く。

各国の結果を比較すると、欧州3か国ではほぼ全ての項目で日本より高い割合となっている。フランスでは「日常生活上のしつけ」（77.0%）、ドイツでは「家の中で、話や遊び相手をする」（79.2%）、スウェーデンでは「寝かしつける」（73.8%）がそれぞれ最も高い。

日本について前回2015年度調査の結果と比較すると、「食事の世話をする」（16.3%→38.3%）、「保育所・幼稚園（日中預けている場所）の送り迎え」（19.9%→38.7%）、「寝かしつける」（27.5%→45.9%）、「おむつを取り換える」（21.9%→39.8%）がそれぞれ20ポイント前後増加している。（図IV-3）

図IV-3 育児の中で、妻よりも夫の方が主に行ってほしいこと
 <子供が1人以上の回答者>（複数回答）

	2020年 (%)				日本 (%)	
	日本 (n=752)	フランス (n=500)	ドイツ (n=448)	スウェーデン (n=519)	2020年 (n=752)	2015年 (n=448)
	食事の世話をする	38.3	66.2	61.2	72.6	38.3
おむつを取り換える	39.8	52.0	57.4	69.9	39.8	21.9
入浴させる	47.3	61.6	55.8	65.9	47.3	56.5
寝かしつける	45.9	66.8	74.1	73.8	45.9	27.5
家の中で、話や遊び相手をする	51.9	74.6	79.2	72.8	51.9	54.2
散歩など、屋外へ遊びに連れて行く	52.8	75.0	75.9	72.8	52.8	58.5
日常生活上のしつけ	40.4	77.0	62.1	66.3	40.4	35.9
保育所・幼稚園（日中預けている場所）の送り迎え	38.7	56.2	60.0	71.1	38.7	19.9
ベビーシッター等の手配・交渉	7.2	27.4	25.7	42.0	7.2	1.6
その他	2.0	0.4	1.1	5.2	2.0	0.4
行ってほしいことはない	5.9	2.2	3.6	7.1	5.9	4.5
配偶者・パートナーはいない（いなかった）	0.8	4.0	2.7	2.9	0.8	
無回答	13.7	0.2	1.1	3.5	13.7	2.7

注：「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

(3) 出産・育児休暇を取得するための条件

一番下の子供が生まれたときの出産・育児に関する休暇について、男性の場合は取らなかった方、女性の場合は配偶者・パートナーが取らなかった方に、どうすれば取れると思うかを聞いたところ、日本では、「休むことによる減収等の心配がなければ」(50.1%)が最も高く、以下、「上司・同僚の理解が得られれば」(42.8%)、「法的強制力のある仕組みや制度があれば」(41.6%)、「業務が繁忙でなければ」(41.5%)などの順である。

各国の結果を比較すると、フランスでは「業務が繁忙でなければ」(47.2%)、ドイツでは「休むことによる減収等の心配がなければ」(50.6%)、スウェーデンでは「配偶者・パートナーからの要望があれば」(42.9%)がそれぞれ最も高い。(図IV-4)

図IV-4 出産・育児休暇を取得するための条件<子供が1人以上で、出産・育児休暇を取得しなかった男性、配偶者・パートナーが取得しなかった女性の回答者>(複数回答)

	2020年 (%)			
	日本 (n=591)	フランス (n=197)	ドイツ (n=160)	スウェーデン (n=63)
業務が繁忙でなければ	41.5	47.2	19.4	15.9
上司・同僚の理解が得られれば	42.8	9.6	28.8	15.9
昇給や昇格など、今後のキャリア形成に影響がなければ	30.1	10.7	36.3	28.6
休むことによる減収等の心配がなければ	50.1	21.8	50.6	34.9
配偶者・パートナーからの要望があれば	15.1	26.4	31.9	42.9
男性が家事・育児に参加する意義がわかれば	14.6	6.1	11.3	11.1
法的強制力のある仕組みや制度があれば	41.6	3.0	15.0	14.3
その他	3.4	4.1	1.9	11.1
無回答	2.9	0.5	1.3	1.6

(4) 子育てにかかる経済的な負担で大きなもの

子育てにかかる経済的な負担として大きなものは何か聞いたところ、日本では、「学習塾など学校以外の教育費」(59.2%)が最も高く、以下、「学習塾以外の習い事の費用」(42.8%)、「保育にかかる費用(保育所・幼稚園、保育ママや学童保育を含む)」(39.0%)、「学校教育費」(36.8%)などの順となっている。

各国の結果を比較すると、フランスとドイツでは「衣服費」(フランス：53.6%、ドイツ：60.3%)、スウェーデンでは、「学習塾以外の習い事の費用」(39.7%)がそれぞれ最も高い。

日本について過去の結果と比較すると、2015年度調査より、「学習塾以外の習い事の費用」(2015年：30.1%→2020年：42.8%)が12.7ポイント、「衣服費」(15.8%→27.3%)が11.5ポイント増加している。(図IV-5)

図IV-5 子育てにかかる経済的な負担で大きなもの<子供が1人以上の回答者>(複数回答)

	2020年 (%)				日本 (%)		
	日本 (n=752)	フランス (n=500)	ドイツ (n=448)	スウェーデン (n=519)	2020年 (n=752)	2015年 (n=448)	2010年 (n=747)
保育にかかる費用(保育所・幼稚園、 保育ママや学童保育を含む)	39.0	32.8	38.4	19.1	39.0	40.4	32.1
学校教育費	36.8	22.2	31.9	0.6	36.8	34.6	22.8
学習塾など学校以外の教育費	59.2	14.6	24.3	2.5	59.2	49.3	36.5
学習塾以外の習い事の費用	42.8	48.0	14.3	39.7	42.8	30.1	19.9
通信費(携帯電話の費用など)	19.8	16.2	17.6	16.6	19.8	10.3	8.8
食費	30.5	39.6	33.9	19.8	30.5	24.1	18.5
衣服費	27.3	53.6	60.3	35.3	27.3	15.8	20.5
住宅費	13.4	15.0	23.0	7.9	13.4	10.5	7.0
医療費	10.8	11.6	13.6	0.8	10.8	13.8	12.7
レジャー、レクリエーション費	17.7	42.6	48.4	31.2	17.7	12.7	12.3
その他	1.3	0.2	0.7	3.9	1.3	-	0.1
特にない	4.5	5.0	13.8	25.6	4.5	4.2	9.8
無回答	0.4	-	0.2	1.9	0.4	0.7	1.2

注:「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。

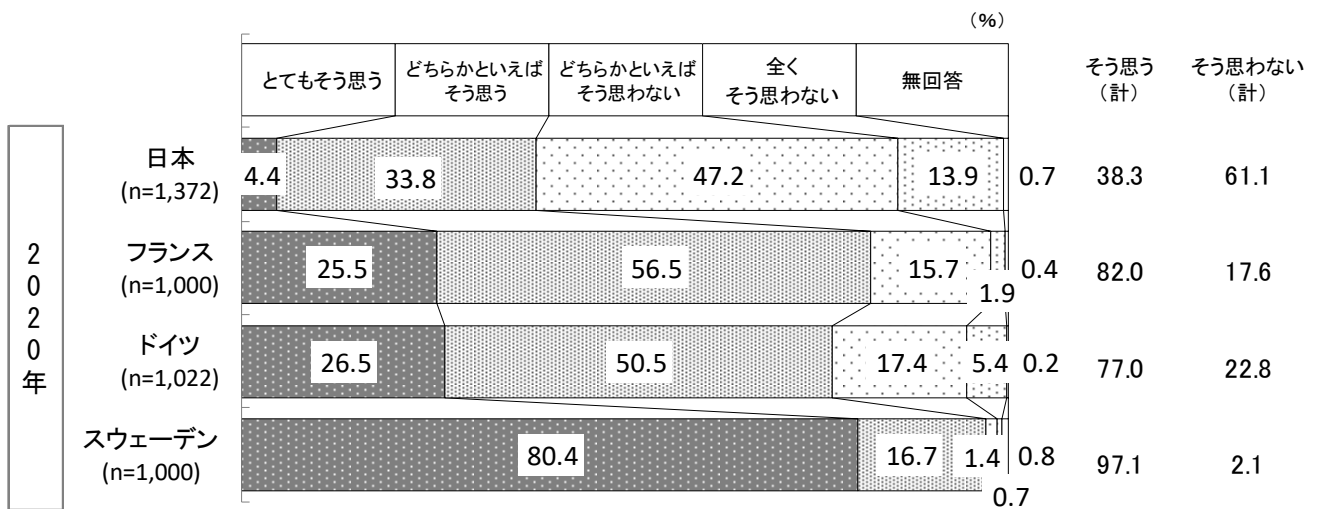
V 社会的支援について

(1) 日本（フランス・ドイツ・スウェーデン）について、子供を生き育てやすい国だと思うか

自国が子供を生き育てやすい国だと思うか聞いたところ、日本では、「全くそう思わない」（13.9%）と「どちらかといえばそう思わない」（47.2%）を合計した『そう思わない（計）』が 61.1%と多数を占める。

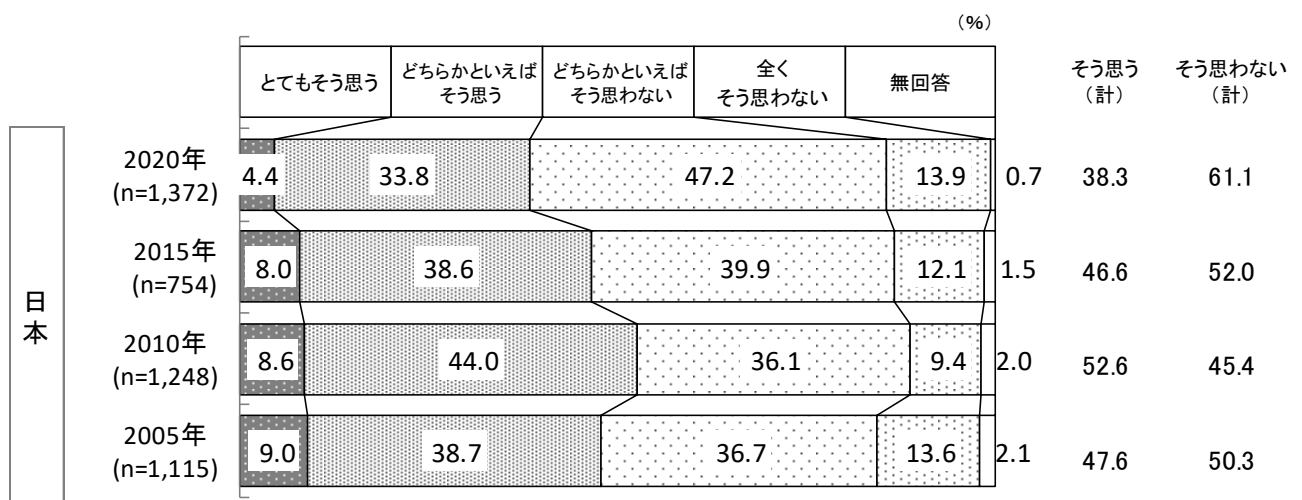
各国の結果を比較すると、「とてもそう思う」の割合はスウェーデンが 80.4%と非常に高く、次いでドイツ（26.5%）、フランス（25.5%）が2割台半ばで並び、日本（4.4%）との差が大きい。「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『そう思う（計）』の割合は、スウェーデンが 97.1%、フランスが 82.0%、ドイツが 77.0%の順であり、日本（38.3%）を大きく上回る。（図V-1）

図V-1 子供を生き育てやすい国だと思うか（4か国比較）



日本について過去の結果と比較すると、『そう思う（計）』の割合が2010年度調査以降10ポイント以上減少している（2010年：52.6%→2015年：46.6%→2020年：38.3%）。（図V-2）

図V-2 子供を生き育てやすい国だと思うか（日本）



注：「無回答」について、2015年以前は「わからない」という項目になる。

(2) 子供を生み育てやすい国だと思う理由

自国が子供を生み育てやすい国だと思うと回答した人に、その理由を聞いたところ、日本では、「地域の治安がいいから」が 52.0%と最も高く、「妊娠から出産後までの母体医療・小児医療が充実しているから」が 46.1%で続く。

各国の結果を比較すると、フランス、ドイツでは、「妊娠から出産後までの母体医療・小児医療が充実しているから」(フランス：56.0%、ドイツ 58.3%)と「各種の保育サービスが充実しているから」(フランス：54.4%、ドイツ：58.4%)の割合が並んで最も高い。スウェーデンでは、「教育費の支援、軽減があるから」(84.1%)と「育児休業中の所得保障が充実しているから」(83.6%)が8割台で最も高い。また、上位項目ではないが「子供を生み育てることに社会全体がやさしく理解があるから」(54.5%)と「地域で子育てを助けてもらえるから」(40.9%)がスウェーデンでは他の3か国よりも高い。

日本について前回 2015 年度調査の結果と比較すると、「各種の保育サービスが充実しているから」(2015年：27.1%→2020年：37.9%)と「教育費の支援、軽減があるから」(28.8%→39.0%)と回答した人の割合がそれぞれ 10 ポイント程度増加している。一方、「親との同居、近居により親の支援があるから」(28.5%→17.9%)は 10.6 ポイント、「妊娠から出産後までの母体医療・小児医療が充実しているから」(52.1%→46.1%)は 6.0 ポイント減少した。(図V-3)

図V-3 子供を生き育てやすい国だと思う理由
 <子供を生き育てやすい国だと思うと回答した回答者> (複数回答)

	(%)				(%)	
	2020年				日本	
	日本 (n=525)	フランス (n=820)	ドイツ (n=787)	スウェーデン (n=971)	2020年 (n=525)	2015年 (n=351)
各種の保育サービスが充実しているから	37.9	54.4	58.4	74.5	37.9	27.1
教育費の支援、軽減があるから	39.0	51.1	39.3	84.1	39.0	28.8
妊娠から出産後までの母体医療・小児医療が充実しているから	46.1	56.0	58.3	71.0	46.1	52.1
公園など、子供を安心して育てられる環境が整備されているから	32.0	45.2	52.9	57.7	32.0	29.6
雇用が安定しているから	10.3	5.6	28.2	70.1	10.3	13.1
フレックスやパートタイムなど、柔軟な働き方ができるから	17.0	23.7	52.6	66.8	17.0	13.1
育児休業や出産休暇を取りやすい職場環境が整備されているから	13.7	22.4	31.5	49.5	13.7	16.0
育児休業中の所得保障が充実しているから	8.2	25.4	44.7	83.6	8.2	8.3
子育ての経済的負担が少ないから	4.8	9.0	12.1	19.2	4.8	6.6
地域の治安がいいから	52.0	28.3	32.0	34.0	52.0	51.3
親との同居、近居により親の支援があるから	17.9	25.6	20.2	24.9	17.9	28.5
地域で子育てを助けてもらえるから	5.5	14.3	14.4	40.9	5.5	13.7
子供を生き育てることに社会全体がやさしく理解があるから	8.6	16.6	19.7	54.5	8.6	11.4
その他	3.2	0.2	0.6	0.5	3.2	-
無回答	0.4	0.1	0.1	0.5	0.4	0.6

注:「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

(3) 育児を支援する施策として何が重要かについて

育児を支援する施策として何が重要だと思うか聞いたところ、日本では、「教育費の支援、軽減」が69.7%と最も高く、以下、「子育ての経済的負担を軽減するための手当の充実や税制上の措置」(49.3%)、「雇用の安定」(45.4%)などの順となっている。

各国の結果を比較すると、フランスとドイツでは、「各自のニーズに合わせた保育サービスの充実（保育所、保育ママ、ベビーシッターなど）」(フランス：47.7%、ドイツ 56.8%)が最も高い。スウェーデンでは、「男性の育児休業の取得促進」(59.9%)、「企業のワーク・ライフ・バランスを促進する政策を充実させること」(59.1%)が最も高い。

日本について過去の結果と比較すると、2015年度調査と比べて「子育ての経済的負担を軽減するための手当の充実や税制上の措置」(2015年：34.5%→2020年：49.3%)、「企業のワーク・ライフ・バランスを促進する政策を充実させること」(22.8%→34.1%)、「男性の育児休業の取得促進」(24.9%→35.2%)、「育児休業中の所得保障の充実」(26.9%→36.9%)が10ポイント以上増加している。また、「各自のニーズに合わせた保育サービスの充実（保育所、保育ママ、ベビーシッターなど）」(2020年：41.2%)は2015年度調査では「各自のニーズに合わせた保育サービスの充実」(2015年：19.2%)として質問した。(図V-4)

図V-4 育児を支援する施策として何が重要かについて（複数回答）

	2020年				日本	
	日本 (n=1,372)	フランス (n=1,000)	ドイツ (n=1,022)	スウェーデン (n=1,000)	2020年 (n=1,372)	2015年 (n=754)
*各自のニーズに合わせた保育サービスの充実 (保育園、保育ママ、ベビーシッターなど)	41.2	47.7	56.8	53.5	41.2	19.2
子育て家庭等の育児不安に対する相談・援助や、親子が気軽に集うことのできる場の提供	31.6	28.2	33.5	49.6	31.6	
教育費の支援、軽減	69.7	36.2	33.3	23.4	69.7	64.1
小児医療の充実	38.7	27.4	26.3	27.7	38.7	48.3
公園など、子供を安心して育てられる環境の整備	34.3	30.7	39.1	41.0	34.3	29.2
雇用の安定	45.4	44.4	45.0	40.6	45.4	39.7
企業のワーク・ライフ・バランスを促進する政策を充実させること	34.1	29.7	40.4	59.1	34.1	22.8
男性の育児休業の取得促進	35.2	31.2	40.6	59.9	35.2	24.9
育児休業中の所得保障の充実	36.9	29.2	44.7	37.5	36.9	26.9
育児休業や短時間勤務などの制度利用がキャリアのハンデとならないための取組	33.7	27.0	42.0	58.5	33.7	26.0
出産・育児による退職後の職場復帰の保障の充実	39.0	29.5	45.8	51.6	39.0	37.3
子育ての経済的負担を軽減するための手当の充実や税制上の措置	49.3	19.6	37.0	17.5	49.3	34.5
ひとり親家庭への支援の充実	33.0	25.9	34.2	56.3	33.0	30.1
3人以上の子供がいる世帯への支援の充実	27.6	14.1	23.6	11.8	27.6	24.9
子供のいる世帯への住宅費の支援	36.6	25.3	37.3	20.1	36.6	28.5
子供を生み育てることの喜び、楽しさの啓発	12.1	6.4	13.0	30.1	12.1	14.7
子供に対する犯罪の防止など、地域における治安の確保	34.0	26.8	22.6	57.7	34.0	31.7
その他	1.7	0.3	0.3	3.0	1.7	0.4
特にない	4.1	4.3	2.5	1.7	4.1	0.7
無回答	0.7	0.1	0.3	1.0	0.7	0.8

*2015年は「各自のニーズに合わせた保育サービスの充実」で聴取
注:「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

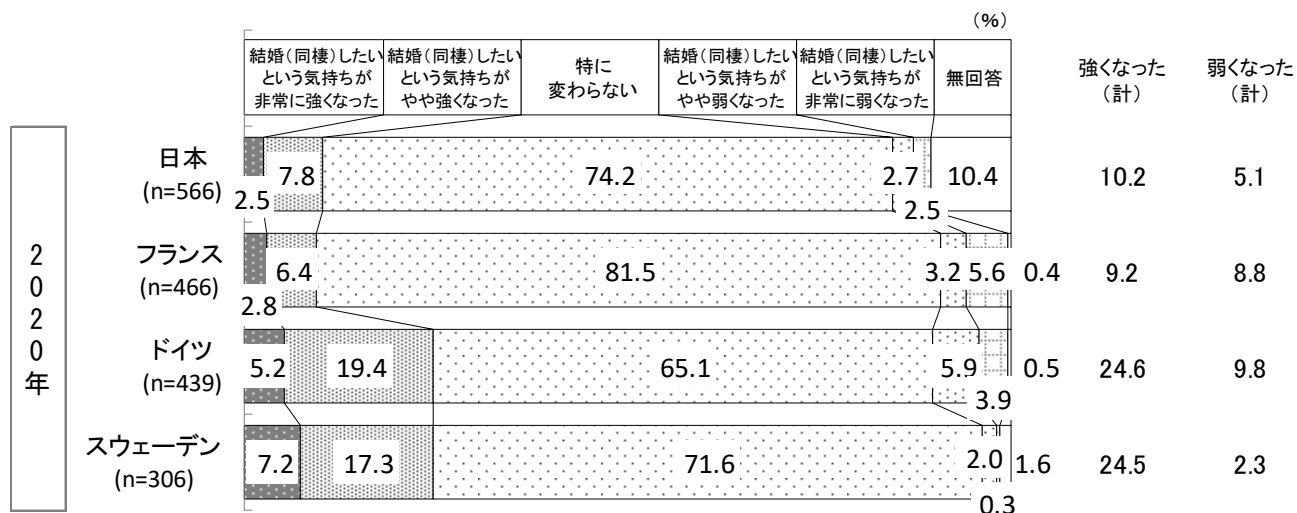
VI 生活意識について

(1) 結婚（同棲）に対する意識の変化

現在結婚も同棲もしていない人に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、結婚（同棲）に対する意識に変化はあったか聞いたところ、日本では、「特に変わらない」の割合が74.2%で最も多いが、結婚（同棲）したいという気持ちが『強くなった（計）』と回答した人は10.2%であり、『弱くなった（計）』と回答した人の割合（5.1%）よりも高い。

各国の結果を比較すると、結婚（同棲）したいという気持ちが『強くなった（計）』はドイツ（24.6%）とスウェーデン（24.5%）で約4分の1と高く、日本（10.2%）とフランス（9.2%）が1割前後となっている。4か国とも「特に変わらない」が多数を占め、『弱くなった（計）』よりも『強くなった（計）』の方が高いが、フランスでは『弱くなった（計）』と『強くなった（計）』が拮抗している。（図VI-1）

図VI-1 結婚（同棲）に対する意識の変化<現在、結婚も同棲もしていない回答者>
(4か国比較)

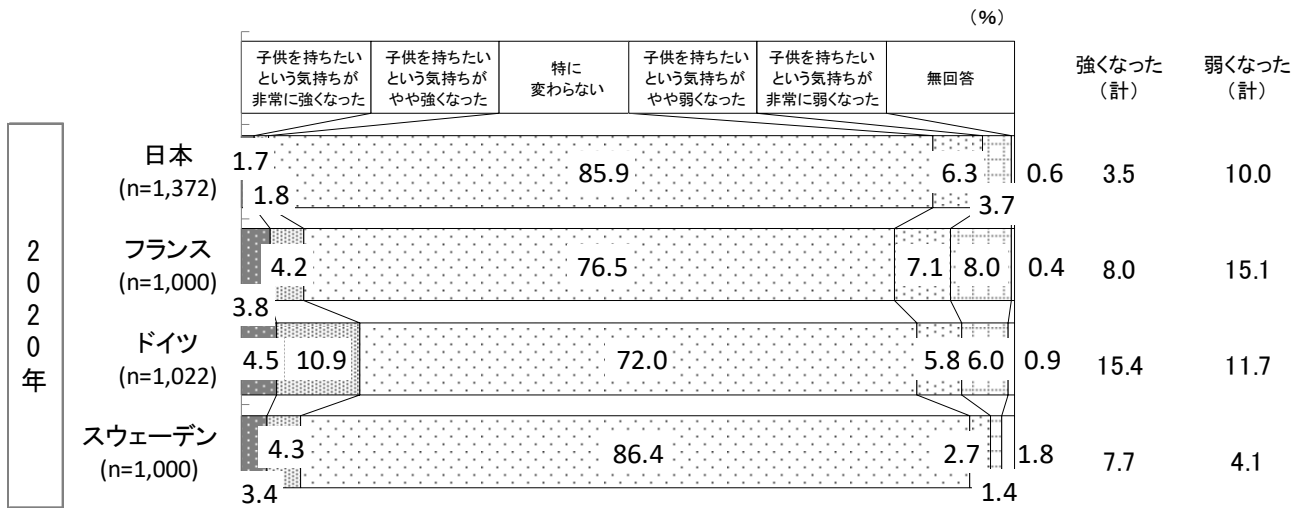


(2) 子供を持つことに対する意識の変化

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、子供を持つことに対する意識に変化はあったか聞いたところ、日本では、「特に変わらない」の割合が 85.9%で大多数を占め、『強くなった(計)』と回答した人は 3.5%にとどまる。『弱くなった(計)』と回答した人の割合は 10.0%で、『強くなった(計)』と回答した人の割合よりも高い。

各国の結果を比較すると、『強くなった(計)』はドイツ(15.4%)で最も高く、次いでフランス(8.0%)、スウェーデン(7.7%)、日本(3.5%)の順である。4か国とも「特に変わらない」が大多数を占め、ドイツとスウェーデンでは、『弱くなった(計)』よりも『強くなった(計)』の方がやや高いが、日本とフランスでは『弱くなった(計)』の方が高い。(図VI-2)

図VI-2 子供を持つことに対する意識の変化(4か国比較)



(3) 家事や育児の負担に対する意識の変化

新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、家事や育児の負担に変化があったかを聞いたところ、日本では「非常に増えた」(9.9%)と「やや増えた」(18.0%)を合計した27.9%が家事や育児の負担が『増えた(計)』としているが、大多数の69.6%は「変わらない」と回答している。

各国の結果を比較すると、『増えた(計)』という回答はドイツ(29.4%)で日本と同程度であり、次いでフランス(23.1%)、スウェーデン(19.2%)の順である。(図VI-3)

図VI-3 家事や育児の負担に対する意識の変化(4か国比較)

